



はいのたね



高齢者の認知症の方への取り組み

認知症とは、いったん正常に発達した知能（脳）に何らかの原因で、記憶・判断力などの障害が起き、日常生活がうまく行えなくなるような病的状態を言います。初期には薬の管理が出来なくなったり、女性では食事がうまく作れなかったりする事が多くみられます。私たちは、高齢者の認知症の方が入院した際は、普段の生活・習慣が継続できるように環境を整えることを心掛け、環境が変わることでの混乱を最小限にしようと取り組んでいます。

認知症の方への対応ポイント

《例》

プラス（◎）の関わり方	マイナス（×）の関わり方
・失敗は静かに、見てみぬふり	・誇りを傷つける
・ゆったり	・急がせる
・そばにいる、一緒にやる	・一人きりにする、待たせる
・少し待つ、黙って見守る	・手を出す、口をだす
・話を合わせる	・否定

- ◎時計やカレンダーを見やすく提示
- ◎眼鏡・補聴器・義歯・杖・シルバーカー等を使用していれば、感覚を遮断しないように引き続き使用する
- ◎病室に愛着があるものを置く
- ◎ベッドの位置・高さ・ベッド柵の有無（昇降する側を普段と同じに）

新任職員紹介（医療事務）



平成28年8月16日より、医療事務の業務で井上病院へ勤務することとなりました、富澤です。過去、この仕事に携わった事がありますが、こちらの病院へお世話になる前は、長い間アパレルの仕事をしていました。その際、『顧客満足度向上セミナー』に何度か参加し、おもてなしやホスピタリティの考え方や、具体的なノウハウを学びました。

その知識を受付での患者様の対応に活かせればと思います。慣れない事も多く、御迷惑をおかけしますが、一日も早く仕事を覚えられるように頑張りますので、よろしくお願い致します。

勉強・相談会（嚥下食の試食会）

当院では、毎月勉強・相談会を行っています。

この度、患者様へ提供させて頂いている嚥下食の試食会を行いました。実際に試食をして、やわらかさやトロミの状態、味を勉強する事が出来ました。

飲み込みが困難な方への食事形態やアドバイスに活かせるよう、スタッフで話し合いました。



100倍!! 得する話

“井上病院のお仕事って何？”

副院長：森雅信



今年の夏は例年にも増して猛暑でした。マスコミ等の啓蒙もあり熱中症への理解が進んだためか？、今年熱中症で井上病院に入院してくる人は少なかったです。個人個人が暑熱環境であるという事実を認識し、水分摂取や服装に気を配り、炎天下で無理をせず、室内の温度調節や風通しに気を使った結果と思います。がんについても同様に、予防や早期発見を意識すること、理解することが大切です。がんで亡くなる人が一人でも減るように、ひとり言をつぶやきます。



みなさんご存知ですか？井上病院は肺がんや、胃がん、大腸がん、膵がんなどの診断と手術を行う、手術がとっても得意な病院です。しかし、取りきる手術ができないくらいに進行してから当院を受診する人もいまだに多いです。がんは進行すると血液やリンパに乗っかって、あるいは大きくなると直接近くの大切な臓器に食いついていたり、播種といって肺がんの場合は胸膜に、腹部のがんの場合は腹膜に散らばって胸水や腹水がたまった状態となって進行してゆきます。

がんは手術等で取りきれなければ、放射線治療、化学療法（抗がん剤）、緩和ケア等と組み合わせての治療となりますが、ある程度以上進行していれば、やがてがんとの闘いに敗れる日が来ます。がんの生存率は少しずつ向上してはいますが、ご存知のように日本人の死亡原因の第1位です。

先日も咳をしながらたばこを吸っている人で、肺気腫を背景に肺がんができていましたが、えっ何で！！（喫煙者は非喫煙者以上に検診を受ける必要があります）とびっくりしている人がいたり、半年前から食事が通らない、食べられない、10kgもやせたと言いながら、まったく食事が通らなくなるまで受診しなかったり、検診で異常を指摘されていてもその1年後に受診したり、仕事が一段落するまであるいは症状が出るまで受診しなかったり（何のための検診でしょうか？）、1年前からお乳のしこりに気付いていても放っておいたりとか、私ももちろんびっくりしますが、後から考えると（おそらく）本人もなんて！！って思うようなケースがあります。



ほとんどのがんは早期に発見し治療を始めるほど良好な結果が得られることが確認されています。がんは進行するまで無症状のことも多いです。がん恐怖症になる必要はありませんが、市の検診（はいのたね第8号参照）や会社検診、人間ドッグを利用して無症状の早い時期のがん発見に努めてください。ちょっとした軽い症状でもあれば病院を受診してください。当代の検査器械や我々の技術は、昔と比べると格段に進歩しています。当院のCTは最新型で、私が医者になった頃のもの比べると100倍!!（主観ですが）よく見えます。



当院での肺がんや膵がんの診断の第一段階はこのCT検査です。



胃や大腸がんの診断の第一段階は胃や大腸内視鏡検査です。内視鏡の操作性、本人への負担、見え方、私が医者になった頃と比べると100倍!!良くなっています。また内視鏡検査は静脈麻酔でさらに本人の負担を少なくすることもできます。手術も私が医者になった頃と比べると、器具も、我々の考え方や技術も100倍!!進歩していますし、麻酔の進歩も甚だしく、術後も昔と比べると100倍!!過ごしやすくなっています。

みなさまががんについてもう少し身近なものだと感じて、予防も意識して（禁煙は肺がんだけでなく多くのがんの予防の第一歩！）、とりあえず健康な人はがん検診を受け、少しでも自覚症状がある人も怖がらずに病院を受診してください。井上病院はいつでも気軽に受診できます。がんで苦しむ人が、少しでも少なくなるように祈っています。私も検診しなくては！

追伸：何でも相談でき、必要なときにはほかの専門病院に紹介してくれる身近な頼りになる医師（かかりつけ医）を持ってください。井上病院はその役割を果たします。

